
最後のカタログ

カズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後のカタログ

【Nコード】

N0945Q

【作者名】

カズ

【あらすじ】

戦場で見た夢、多分？

始まり

「死んだ、死んだ、みんな死んだ、ざまあみろ〜♪」

最高の気分だった、だってコイツらは俺にとって最悪のクソ野郎だ？

毎日、毎日、「みんな死ね、苦しんで死ねっ？」と、心の中で願っていたんだ。

今、凄く良い気分だ。これなら空でも飛べるんじゃない♪、

両手、両足を吹き飛ばされ地面に転がってる俺だけどハイなテンションが続いている。

ここは戦場、転がってるクソ野郎達は戦友（友なんて呼びたくないが）と言う奴だ。

先程まで何人が生きていたが、敵がご丁寧に転がっている奴一人一人に弾をぶちこんでいった（明らかに死んでる奴にもだ）

俺の隣にも、息がある戦友（しつこいようだが友ではない）が転がっていた。

コイツの所にも敵が来た。

動けないコイツを冷たい視線で見下していた。

俺は待った。コイツが恐怖の前に醜態をさらすのを。

いつも自信満々で傍若無人に振る舞うコイツ。

俺の女房を寝取り、飽きたら簡単に捨てたコイツ。

俺は待った、その瞬間を：

しかし敵は観客に対して優しくはなかった。

命乞いの時間も与えず、正確に三発ぶちこんで事を終わらせた。

次は、俺の番だ。

しかし敵は動かなかった？

何か変？

音がしない！？

ひょっとしたら時間が止まっている？

最初俺が狂ったのかと思った。

痛みも感じない。

だんだん楽しくなってきた。

「死んだ、死んだ、みんな死んだ、ざまあみろ？」

敵が全て方をつけてくれた。

俺は本当にハイだったよ。

女房を寝盗られた俺を、同僚達は蔑んだ。

毎日が地獄だった。

でも、もうそれも終わり。

俺ももうじき死ぬだろう。

この喜びの中で死ねるなら上出来だ。

ふと、最後に会った女房の顔を思い出した。

ここに来る最後の晩に、女房は会いに来た。

俺ではない。

捨てられたにもかかわらず、アイツに会いに来たんだ。

その時、偶然会った俺に女房は悲しそうな顔をした。

その顔の意味が俺には今も分からない。

女房の名前を口にした時、それは起こった。

最初は俺の頭上でキラキラ光出し、そのうち光の粒子が集まり出したと思ったたら、集積し一冊の本になった。

なんの冗談？それとも出血多量で幻覚見てる？

本にはタイトルがあった。

「最後のカタログ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0945q/>

最後のカタログ

2011年1月16日05時25分発行